

令和2年度 林業架線技術者養成事業

～農林大林業科・林業公社（支援センター）連携実施事業～

《活用事業》

林業・木材産業成長産業化促進対策交付金事業
－ 持続的林業確立対策
－ マーケティング力ある林業担い手の育成
－ 人材の確保・育成・定着
－ 林業就業者に対する技能研修等

(公財)島根県みどりの担い手育成基金助成事業
－ 林業架線技術者養成事業助成金

事業（研修会）総括 [農林大林業科報告より]

1 簡易架線集材技術研修

主伐による木材生産が進む中、森林作業道の開設が難しい現場で、スイングヤーダの性能を十分発揮させた集材技術を普及するために、平成27年度から主索を用いた「フォーリングブロック式」の集材研修を行ってきた。この索張りは、公社造林地で行われている更新伐など、1ha程度の小面積皆伐地において有効であると考えられる。また、主索のスパンは100m程度で、元柱と先柱の位置がほぼ水平にとれる地形が適している。さらに、主索を用いた集材方法であることから、大径木を安全に集材することも可能であり、今後現場で活用する場面が増えていくと想定される。

研修には、スイングヤーダを使って効率的な木材生産を進めようとする4つの事業体から5名が参加した。「フォーリングブロック式」の作設研修は今回で6回目であることから、この索張り方式に適した現場の特徴や、架設手順、注意点などについて、参加者は興味を持って取り組んでいた。

今回の研修現場は、上げ荷集材となり引き戻し索の滑車の位置を移動させながら、大径木を全木で横取りして主索の搬器まで引き寄せ集材した。

また、スイングヤーダの規格に応じて横取り範囲に限界が生じることから、ホールラインやホールバックラインがドラムに巻き取れる長さを確認した上で、横取り範囲を設定する必要があるとあり、事前に図面や現地調査から集材計画を検討することが重要であると分かった。

今回の研修終了後行ったアンケートでは、研修に対する満足度の平均は74%だった。今後「フォーリングブロック式」が有効な小面積皆伐の現場を集約化し、安全で効率的な木材生産に結びつけて欲しいと思う。

また、4つの事業体から研修生が参集し、他の事業体職員等と議論を深めることにより、新たな技術や情報を取得して、業務改善を進める技術者を育成することができた。

2 林業架線作業技術研修（応用コース）

架線集材作業の技術とノウハウを県内の林業技術者に伝承していくためには、1つの事業体の現場研修では限界があり、県内すべての事業体が協力し合い、様々な現場における事例を体験しながら身につけていくことが必要である。

このことから、平成29年度から架線集材を中心に木材生産を行っている県内事業体の協力を得て、集材機による架線集材の現場を見学し、経験豊かな班長の現場での工夫やノウハウを勉強し合う短期研修を「応用コース」として開催している。昨年度は、東部の須佐チップ工業有限会社の現場を視察し、班長からの技術を伝承していただいた。

今年度は、西部・東部地域で県内有数の木材生産を行う邑智郡森林組合と須佐チップ工業有限会社の協力を得て、2カ所の現場で研修を行った。研修には県東部と西部の事業体8事業体から12名が参加した。

初日の邑南町の現場は、元柱と先柱のスパン400mの谷間を搬器が移動する現場であった。主索の通る中心線を決定する方法や元柱の控索の作設方法など、詳細に説明を受けた。また、先柱付近に集積場所が存在し、そこへスイングヤードで仕分けした材が積まれていた。元柱付近の土場の集積状況に応じて材を効率的に搬出していることなどの説明があった。

2日目の出雲市内の現場は、元柱と先柱のスパンが800mの間に中間支柱を立てて、搬器が尾根を超える現場であった。主索の通る中心線を決定し、中間支柱の設置方法や控索の作設方法及び集材機の設置計画など、詳細に説明を受けた。

各現場とも、架線集材を行うに当たって様々な障壁が認められるが、それらを克服するために施された工夫やアイデアについて耳で聴き、目で確認できたことは大きな収穫であった。

今回の研修終了後行ったアンケートでは、研修に対する満足度の平均は62%だった。限られた時間ではあったが、他の事業体の現場に立ち入って経験豊かな現場班長から技術を学ぶことは得るものが多い。しかし、林業の現場は同じものがなく、極めて多様な条件があることから、今後も様々な現場を視察するとともに、現場での実習を通じて班長からノウハウの伝承を続けることが必要である。